

行政や自治会と連携した 森のようちえん



森のようちえんウィズ・ナチュラ 岡本麻友子

森のようちえんって？

1950年代にデンマークで一人のお母さんが、森の中で我が子と近所の子どもを保育したのがはじまり。

日本では、2005年から「森のようちえん全国フォーラム」が開催され、2008年に「森のようちえん全国ネットワーク」設立。2018年4月には「NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟」として、森のようちえんの社会化に向けて新たなスタートを切った。

日本では年々増え、250近くの森のようちえんが存在する。



森のようちえんウィズ・ナチュラ 代表
NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事
岡本麻友子

小さい頃から保育士を目指し、地元の保育園に5年勤務する。その後、美容や癒し関係の仕事に就くが、子育て中のお母さんの悩みを聞いたりサポートをする機会が多くなり、「子どもには問題ではなく、問題を作っているのは大人だ。」ということに気づく。

そこで従来から夢だった大人も子どもも共に育ちあう共育の場作りとして、2010年「森のようちえんウィズ・ナチュラ」開園。2014年2月に長女出産。生後2ヶ月で森でお散歩を開始。その時に感じた自然の中での「センスオブワンダー」が育まれる子育てをたくさんのお母さんたちと分かち合いたい！と親子のお散歩クラス開始。2016年4月には通年型の預かり保育を始め、同年5月より0歳から2歳児の親子のお散歩クラス「親子組はぐみ」をスタート。

2017年3月にはお母さんたちの仲間作りや学びの場を目的としたコミュニティデリカフェもオープンし、地域と繋がり、孤育てをなくすコミュニティを目指していく。



森のようちえんが大切にしていること

『自然はともだち』

- ・自然の中で、子ども、親、保育者が、共に育ちあうこと
- ・自然の営みに合わせるということ
- ・保育や福祉の仕組みを理解し、日本の保育や子育て全体に貢献すること



『いっぱい遊ぶ』

自然の中で、仲間と遊び、心と体のバランスのとれた発達を促す。

『自然を感じる』

自然の中でたくさんの不思議と出会い、豊かな感性を育む。

『自分で考える』

子どもの力を信じ、子ども自身で考え行動できる雰囲気をつくる。

子ども主体の幼児教育・保育

日々の自然体験や生活体験とそのプロセスを大切にしながら、子どもが持つ可能性の芽が出るのを信じて待つ保育。

「自分で考えて行動する」という内面的な力を育んでいる。

子ども一人一人の心と身体の発達に即した保育。

保育者・保護者ともに、その見えない心の動きや成長を観る目を養い、それを育むスキルが必要となる。大人も共に自分の人生や生き方を問いかながら精神的な成長を促される。

子どもの「やってみたい！」という意思が尊重され、肯定的な環境や土台で、その子らしくあるがままに育つ。

大人になってからの子どもたちの人生の土台を創っている時期(幼児期)の体験の質を大切に環境を整えていく



森のようちえん ウィズ・ナチュラ

- ・2010年4月イベント型の森のようちえんを奈良県葛城市の自然公園でスタート。月2、3回の親子クラス。
- ・2016年4月より通年型の森のようちえんを年少児5名とスタッフの子ども2歳児2名でスタート。
- ・奈良県天理市の里山フィールドで活動中。
- ・1年中雨の日も雪の日も野外の保育活動。
- ・スタッフは有資格者のコアスタッフ5名とサポートスタッフや親子組担当スタッフ、ボランティアスタッフを含め12名。

森のようちえんを認定する動きが！

・森のようちえんを都道府県や市町村レベルで認証制度が作られるなど、森のようちえんや自然保育を取り入れる園を行政がサポートする動きが進んでいる。

鳥取県(H27年3月)「とっとり森・里山等自然保育認証制度」施行

長野県(H27年4月)「信州型自然保育認定制度」施行

広島県(H29年10月)「ひろしま自然保育認証制度」施行

・三重県 平成27年度には、県内の全保育所、幼稚園、認定こども園(636園)を対象にアンケート調査等を実施(546園回答回収率85.8%)し、実態把握と有効性調査を実施

○野外体験保育の実施頻度が高い園ほど、園児が「自分からすすんで何でもやる」、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる」、「さまざまな情報から必要なものが選べる」が高い傾向にあった。

森のようちえん ウィズ・ナチュラ 理念

・子どもひとりひとりの持つ無限の可能性と成長のプロセスを信じて見守る

・自然の中でただ遊ばせるのではなく、子どもの自主性と心、体を育む保育実践

・生きとし生けるもの全てへの感謝の気持ちを育み、人としての在り方や生き方を学ぶ





春



夏



秋



冬





自然への畏敬の念

言葉で伝えられるものではなく、日常目に見えないものが積み重なっていく体験を通して、子どもたちの中に育まれていっているのを感じる。大人がやっているとマネをする、そして、「なぜ手を合わせるんだろう?」という不思議さに目覚め、理解を深めようとする。先に教えては理解にならない。



火 刃物



野外料理

味噌汁・煮込み
うどん・雑炊・カ
レー・天ぷら・ぜ
んざいetc...



造形





味噌作り 梅仕事



生まれてきてくれてありがとう
会えてよかったね
お誕生日おめでとう

自然体験がなぜ大事か？

- * 自然の中にある無限の多様性の中から感性を養うことが幼児期の成長過程においてとても重要と考えられています。
- * 物事を深く理解できる人間に育つには、豊かな自然体験が不可欠。
- * 脳科学でも、幼児期に十分に五感を使った体験があった上に脳内のネットワークができていくといわれている。先に体験、知識は後から。
- * 幼児期の自然体験を通して、子どもの知的好奇心や感性が豊かに育まれ、社会性・自尊心・自己肯定感の向上が期待される。(意識調査で実証済み)

自然体験を通して子どもに育つもの

- ・自然への関心、自然への営みへの不思議がり等々→人間と自然の共生への関心とそうしたことを大切にする思想、自然科学への関心
- ・自然の美への関心、葉っぱ集め、石集め→美的関心から美的表現へ 芸術の根っこ育て
しかし、そのためには自然の中で遊ぶ、というだけでなく、その過程に保育者が介入することも必要
- ・自然の倫理と向き合いながら子どもを育てないと、ロボット(大人の言ひなり)を育てるようなもの。人間と自然の共生の大切さが感情とともに理解できる子どもとは、小さい頃の自然体験をたくさん経験してきた子である。(汐見稔幸先生より)

リスクマネジメントについて

怪我や事故などに対して

- ・1日中野外で過ごすので、服は汚れるし小さな怪我はたくさんします。
- ・しかし「危ない！」せいにしないで、保育者は安全にやらせてあげる方法を日々考えて、安全管理には十分に配慮する。
- ・リスクがあることを安全にやらせてあげられるかどうかが、保育者の腕の見せ所。
- ・リスクがあるから面白い！

森のようちえんウィズ・ナチュラは
日頃より、救急救命講習や安全講習を受け、
森のようちえん団体安全認証されています。



天理市高原地域
(長瀧町・福住町・山田町)



天理市と「自然環境を活かした教育・子育てに関する連携協定」を締結しました！



年に3回は
サステイナブルを
テーマにした
映画の上映会も。

地域の皆さんと
ともに、
持続可能なまちづ
くりに向けたマル
シェを毎月開催！



学力や社会性が高まる地域とは？

母親が穏やかに過ごせるコミュニティーがある
(母親に笑顔がある)



子どもが遊びまわれる野山や街がある
(子どもの歓声が聞こえる)



若者と大人が「共汗＆共感」する場がある
(住民主体の地域活動が活発である)

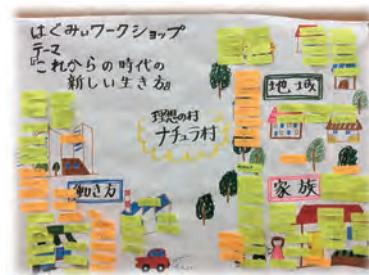
森のようちえんの取り組みは
超重要！

(文部科学省中央教育審議会
生涯学習分科会学校地域協働部会専門委員
浦崎太郎先生より)

目指すは

子どもも地域も育つ『わたし』を 生きる母達が作る理想の共育コミュニティ

幸せや安心、そして仕事は、
与えてもらうものでも
条件付けのものでもない。
その気になれば、今から自分で
クリエイトできる。
仲間とともに100%自分を発揮して
生きる「対話と信頼」がつなぐ
コミュニティ。
持続可能なだけではない、
一人一人の満足度が高い
コミュニティになることで、
他の地域のモデルとなる。



共育から共創へ

「大人も子どもも共に育つ共育の場」を
土台に、



森のようちえんウィズ・ナチュラの理念に
共感し、育ちあってきたお母さん(保護者)と
地域の皆さんとともに新たなステージへ。

教育や子育てに関わる社会問題、地域の課題を
関わる一人一人が自らのアイデアや行動で
地域や社会を元気付けるコミュニティを
拡大していく。

地域力って大事！



子どもを真ん中に
親・保育者・地域・行政が手を繋ぐ
共育・共創・共生コミュニティ



ご清聴ありがとうございました



森のようちえん ウィズ・ナチュラで検索 ブログで日々の保育の様子
を更新中
FacebookページやHPもあります。